

インターナショナルフェスティバル2023開催



中国のファッションショーに出演した日本漢服社の皆さん

「インターナショナルフェスティバル2023～世界の国からこんにちは～」が、絶好の秋の行楽日和のさわやかな空気の中、10月22日（日）に「ふなばしアンデルセン公園」で開催されました。

午前10時に、イベントドームでステージプログラムがスタート。

小田原隆泰インターナショナルフェスティバル実行委員長の開会宣言の後、船橋市国際交流協会嘉規洋会長から、フェスティバル開催に関わってくださった多くのスタッフ、ボランティアおよび関係者の皆様への謝意とともに、ステージ上の催し、模擬店、フリーマーケット、スタンプラリーの開催、船橋商工会議所によるホンビノス貝のみそ汁の無料配布などのイベントが紹介され、最後に、今後も協会の活動に更なる関心を寄せていただきたいとの挨拶がありました。

続いて、来賓として松戸徹船橋市長は、市内には2万人を超える外国人が居住し、市民との交流が非常に大切になっていると話されました。インターナショナルフェスティバルも継続して開催されており、外国人の子供たちもたくさん参加しているが、こうした活動により、今まで以上に外国人が一市民として生活で

きる街を作っていきたいと述べられました。また、世界は現在、不安定な情勢の中にあるが、こうした中でこそインターナショナルフェスティバルが開かれることは意義深く、つながりの輪を広げていきたいと挨拶を結ばれました。

当日は、アンデルセン公園が無料開放日でもあり、多くのご家族連れの方が来園し、イベントドームでの様々な国々の魅力的なプログラム、みんなの広場ではフリーマーケット、園内6カ所を巡るスタンプラリーなどの色々な催しに多くの参加がありました。



挨拶をされる松戸徹 船橋市長

ステージ

挨拶に続いて、ステージではエクアドル出身のパウルさんによる「シルクロード」や「アミーゴ」などの異国情緒豊かな曲でオープニング。続く船橋市国際交流員のチャーさんと近くに住むベトナム人の皆さんによる歌と踊りは、アマチュアとは思えない圧巻の演技でした。鮮やかなフラメンコ衣装による舞踊に続き、NPO法人日本3Q体操協会による「3Q体操・重陽気功」では、観客もいっしょにリラックス体操を行いました。

この後、フィリピン人の演歌歌手、ヨランダ・タシコさんが、オリジナル曲「ありがとう」に加え、「浪花節だよ人生は」、「真赤な太陽」を披露しました。続いて、船

橋市国際交流員のリンさんと日本漢服社の皆さんによる中国のファッションショー。琴や琵琶奏者の演奏に合わせて煌びやかな衣装を纏った女性や男性が次々とステージ上に登場。時代や着用場面の解説もあり、中国絵巻を見ているようでした。

午後は、日本人オーケストラ「ポートソレイユ」の管楽器メンバーが「アルプスの少女ハイジ」など楽しく演奏してくれました。続いて、アリシア・フジマさんら4人のフィリピン人女性によるフィリピンの踊り。バンブー・ダンスの途中からは、呼びかけで多くの子供たちが一緒に楽しく踊りました。「デンマーク体操」では、インストラクターのYurikoさんと2人のデンマーク人アシスタントが、デンマーク体操を先導。観覧していた老若男女の皆さんも、立ち上がって体を動かしました。

フィナーレはおなじみのポール&ジョジョ。「マイエンドレスラブ」などがのびやかに歌われ、ステージの幕を閉じました。



南米の楽器を演奏する
パウルさん



演歌を熱唱する
ヨランダ・タシコさん



歌と踊りの後、子どもたちとステージに並ぶベトナムのみなさん



フラメンコチーム「Ramo」のみなさん



会場みなさんもいっしょに3Q体操



ポートソレイユのみなさん



フィリピンのバンブーダンス



観客もいっしょにデンマーク体操



フィナーレを飾るポール&ジョジョ

模擬店・フリーマーケット

イベントドームでは、世界の食べ物の模擬店が並び、みんなの広場では、船橋商工会議所提供のホンビノス貝のみそ汁や、海外派遣留学生の綿菓子には、長い列ができていました。フリーマーケットにも、世界の雑貨や、ヘナボディアート、紙芝居などの出店があり、賑わっていました。



ホンビノス貝のみそ汁に並ぶ人たち



フリーマーケット会場の様子



おいしそうな世界の食べ物の店が並ぶ模擬店コーナー



ヘナボディアート



自作の焼き物を展示



海外派遣留学生の綿菓子は子どもたちに大人気

スタンプラリー

園内の6カ所に設けたポイントでは、スタンプラリーが行われました。6個スタンプがそろえば景品がもらえるとあって、多くの来園者が参加し、1000個用意した景品は、全部なくなりました。親子連れで景品を選ぶ姿は微笑ましく、クイズをいっしょに考えたり、見つけにくい場所を探したり、クイズの列で待つ間におしゃべりしたりと、親子の会話もはずんでいたようです。クイズのポイントでは、日本語教室に通う中学生や卒業生、成人の学習者など外国人ボランティアもクイズを出したりスタンプを押したりして、交流の場となりました。



大人だけでなく、高校生や中学生の外国人ボランティアも活躍

葛飾公民館日本語教室が再開

葛飾公民館にて開催されていた、夜の日本語教室。コロナや公民館の改修工事のため長らく休止していましたが、今年5月からようやく再開となりました。

毎週金曜日の夜6時45分から、8時45分まで。経験者2名と初心者4名、計6名の日本人ボランティアで、船橋市在住外国人の日本語学習支援を行っています。第1タームの学習者は2名だけでしたが、現在は4名。中には、お友達にも紹介したい！と言ってくださる方もいます。教室再開のことが徐々に広まり、この調子で増えていってほしいと期待しています。

学習者の皆さんの国籍は、中国・ベトナム・フィリピン・メキシコと多彩です。夜の部という時間帯のため仕事後に通う方も多く、お休みになってしまうこともあります。そんな中でも通い続け熱心に学ぶ姿に、いつも尊敬の念を覚えます。

ボランティアメンバーは初心者が多く、最初は緊張の連続でした。経験者お2人の「まずは楽しくやろう」の言葉に安心しつつ、早半年。ようやく少しずつ慣れてきたところです。そんなメンバーで「申込時のレベルと実際の日本語力が全然違う！」「この学習者は2人で一緒に勉強した方がいいのかな？」などなど、作戦会議(?)したり試行錯誤したり。

学習者の方々に、少しでも「日本語が話せて楽しい」と思ってもらえるよう、これからもボランティアみんなで頑張っていきたいと思います。

(会員 出口菜菜子)



「やさしい日本語講座」開催

11月11日（土）、市職員研修所にて、「やさしい日本語」講座を開催しました。講師は、多文化共生リソースセンター東海・代表理事の土井佳彦先生にお願いしました。講義では、「外国人」という言葉は、どのような人をいうのか、船橋市ではどこの国の人が多いのかななどの基本的な知識を学んだ後、「やさしい日本語」とは、相手に分かりやすい日本語のことで、人によって「易しさ」は違うことを学びました。文を短くして構造を簡単にするなどの基本を学んだ後、参加者でペアを作り、外国人役、説明役に分かれワークショップを行いました。船橋市の広報に載っているお知らせを「やさしい日本語」に直してみる練習です。外国人役の相手の話を聞きながら、その人にとって、どの情報が必要なのか、不要なのかをくみ取り、一番伝えたいことをはっきりさせて話すなどのコツを丁寧に教えていただきました。

当日は22名の参加者があり、中には日本語教室でのボランティアを希望する方もいて、皆さん意識も高く、活発に取り組んでいました。

わたしたちの住んでいる地域でも外国の方と触れ合う場面が増えてきていると思います。外国語はわからなくても「やさしい日本語」という方法を学んでコミュニケーションを取り、住みやすい地域づくりに役立てていただきたいと思います。



ペアになってやさしい日本語に言い換える練習

お知らせ

外国人防災講座

日時：令和6年1月21日(日)13:30～15:30

場所：船橋市役所11階大会議室ほか

内容：外国人住民とご家族や友人向けに災害時に必要な備えや情報の調べ方について講義をします。
地震を体験する車や、火事の煙から逃げる体験もできます。

募集：広報ふなばし 12月15日号で募集します。

ぜひ近くの外国人の皆さんにお声がけください。

国際理解セミナー

日時：令和6年1月30日(火)18:00～20:10

場所：船橋市勤労市民センター

内容：駐日デンマーク王国大使をお招きし、デンマークについてお話しいただきます。

募集：広報ふなばし 1月1日号で募集します。

*メールマガジンが届かない事例が発生しています。ただ今対策を考えていますので、しばらくホームページで、イベントや募集等ご確認ください。